

令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<h3>2 友達への思いやり</h3> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
--	---	--

【学校から】○前年度末からの約3ヶ月の臨時休校期間を経て、児童も不安を抱えての新学期スタートとなった。休校期間中はタブレット等を活用した健康観察等を行うことで担任との関係を築いてきたが、再開後もその不安を解消すべく、児童の気持ちに寄り添った対応を心がけてきた。一人一人の児童生徒の尊重に関しては、児童の95%が「4」「3」と回答しており、その間わりの成果が見られる。○友だちとなかよくできていると回答（「4」「3」）した児童は95%とほぼ前年度と変わらない。クラス替えもあり、人間関係での不安も大きかったと想像できるが、新しいクラスで新たな友だち関係を構築することができている児童が多い。ただし、「4」の回答に関しては、前年度同様、教職員との差が大きい。○道徳が教科化され、「考え、議論する」授業実践を行っている。その結果、児童も問題を自分事として捉えることができるようになってきている。また、今年度から力を入れている読書活動も児童の豊かな人間性を育むことに繋がるものと期待している。

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3>5 授業力向上</h3> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h3>6 ICT活用</h3> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
---	--	---

【学校から】○臨時休校により（対面）授業ができなかったことで、年間指導計画の見直しを余儀なくされた。現学年の学習内容の履修が今年度内にできるとともに、児童に大きな負担がかけられないような計画を立て、授業を行ってきた。（今年度内の履修完了ができそうである。）また、近距離でのグループワーク等が制限されたことで、授業形態にも工夫、配慮が必要となったが、タブレットを活用した意見の集約や比較をするなどの工夫を行うことと対応してきた。その成果もあり、意欲的な学習態度に関しては、90%程度の児童が「4」「3」という回答をしている。○教師も電子黒板やタブレットの活用を促してきたとともに、ICT支援員の支援等も受けながら活用の幅を広げている。ICTを活用したわかりやすい授業づくりに関しては、74%の児童が「4」と回答しており、その成果が表れている。1月末からはタブレットが一人一台ずつ配付されることで、更に児童が「学びとる」授業への意識転換が求められる。実践を重ねることで、授業力向上に繋げていく。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

【学校から】約3ヶ月の臨時休校により、児童の運動の機会が減少し、生活リズムの乱れも生じた。その中で、3者とも約80%は「4」「3」と回答しているが、「4」に関しては児童・保護者と教職員の差が大きい。今後も家庭と連携しながら児童の健康づくり（特に早寝・早起き）に取り組んでいく。

<h2 style="text-align: center;">①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h2> <h3>8 児童生徒理解</h3> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。</p>	<h2 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h2> <h3>9 いじめや問題への対応</h3> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<h3>10 学校の支援体制</h3> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	

【学校から】○児童理解に関しては、90%を超える児童が、「4」「3」と回答している。感染防止対策を講じながらの教育活動ではあるが、教師が一人一人の児童をしっかり見つけ、認めていくという意識を持って対応した結果であろう。しかし、「2」「1」の回答が少数ながら存在するということを謙虚に受け止め、更に一人一人に目を向けた対応をしていかなければならない。○いじめや問題への対応に関しては、迅速にかつ複数で対応するようにしている。事実確認をしっかりと行い、児童が納得するまで話し合うとともに、保護者にも連絡し、同じ目線で考えていくようにする。○特に支援が必要な児童に関しては、校内委員会等定期的に実施し、共通理解の下、当該児童への支援を行っている。支援が必要な児童を含め、全児童を大切にするという意識をもって教育を進めているが、8%の保護者は不十分であると評価している。通信や懇談会、教育相談などを活用し、子どもたちの様子を伝えながら、保護者との連携を大切にしていこう。

<h2 style="text-align: center;">①子どもたちの身近な安全対策の充実</h2> <h3>11 安全と事故防止</h3> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h2 style="text-align: center;">②最適な学習環境の整備</h2> <h3>12 施設・設備の安全管理</h3> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
--	---

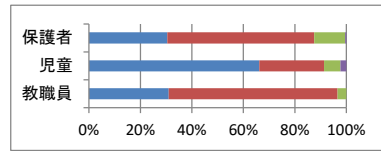
【学校から】今年度は「新型コロナウイルス感染防止」に明け暮れた1年であった。感染防止対策について全職員で共通理解、共通実践を図るとともに、児童への指導、家庭への協力依頼を行ってきた。マスク着用や手洗いの励行等、児童の意識も高まってきている。防犯・交通安全に関しては、地域の協力が事故防止力になっている。

【学校から】校舎も老朽化してきており、毎月の施設安全点検を入念に行うとともに、不備がある場合は担当者、学校主事を中心に迅速に修繕等の対応を行っている。校庭には腐朽している樹木も多く、伐採を行った。また、「スクールサポートスタッフ」による消毒や保健室に薬剤散布を行うなどの防疫対応を行った。

③家庭・地域社会との連携強化

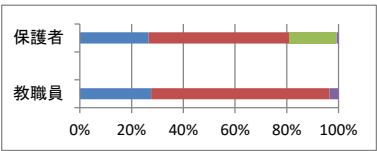
13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

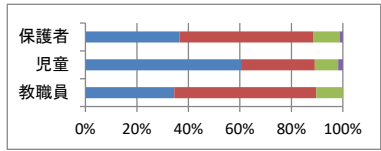


【学校から】○年度当初の臨時休校により家庭訪問やPTA総会が中止となったとともに、感染症対策のため、授業参観や学級懇談会も例年通りの実施ができなかった。直接保護者に対して学校や学年・学級の教育方針を説明する機会が減少したものの、88%の保護者が「4」「3」と回答している。学校安心メールやHPを活用した学校だよりの配布や学年・学級通信等で、今後は、タブレットを活用した保護者への連絡も考えていく。○地域行事やゲストティーチャーを招いての学習活動も軒並み中止となり、地域の方々との交流はほぼできなかったが、あいさつ運動や交通指導、防犯パトロール等は例年通り実施できたことは、安全・安心な校区づくりに繋がった。

⑧本校の教育

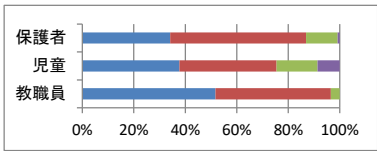
15 「あ・そう・だ」運動の積極的な展開と強化

子どもに「あ・そう・だ」運動は定着していると思いますか。（あいさつ・そうじ・だれとでも仲よく）



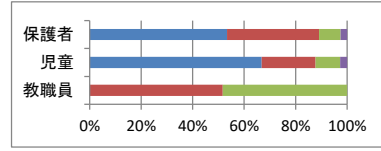
16 読書の習慣化

学校は、読書の習慣化に取り組んでいると思いますか。



17 早寝・早起き・朝ごはん、遅刻解消の取り組みの強化

子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践でき、遅刻せずに登校することができていると思いますか。



【学校から】○生活委員会をはじめ、各委員会の取り組みもあり、「あそだ」運動に関しては、89%の児童が「4」「3」と回答しており、その定着が見られる。（60%の児童は「4」と回答している。）今後も児童のアイデアを生かした活動を広げていく。○本市の学力充実モデル校の指定を受け、今年度から図書館教育を研究テーマとして取り組んでいる。読書環境の整備、魅力ある読書活動の推進を視点に取り組んでいるが、読書の習慣化については、まだ、30%弱の児童が「2」「1」と回答している。更に、魅力ある読書活動に取り組むとともに、各家庭にも呼びかけ、読書に親しむ機会の拡充を図っていく。○本校の課題の一つとして遅刻の解消が挙げられる。この課題解決に向けては、家庭の協力も必要であるが、まだ保護者、児童と教職員の意識の差が大きい。この差を埋めるべく、家庭と連携して遅刻児童の数の減少に向けて取り組んでいく。

来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標や経営方針については、引き続き、学校だよりや学年・学級だより、HP等を通して情報発信を行う。保護者や地域と連携しながら「礼・学・体」の調和のとれた児童の育成を目指す。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、教室の換気やマスクの着用、手洗いの励行、施設の消毒等を継続して行うとともに、予防についての児童の意識向上を図っていく。また、感染症に関する不当な偏見や差別、いじめなどの人権侵害を発生を防ぐために、発達段階を踏まえた指導を継続していく。
- コロナ禍で先行き不透明な時期であり、児童の心も不安定になりがちである。児童にしっかりと関わりながら信頼関係を構築し、心の変化に寄り添っていく。必要に応じて、SCやSWIほか関係機関と連携して支援を行っていく。
- タブレット端末一人一台導入を受け、そのメリットを生かした授業づくりを工夫、実践していく。教師に「教わる」授業から児童自身が「学びとる」授業へと意識の転換を図り、新しい時代に必要となる資質・能力の習得を目指していく。
- 家庭学習に関しても、タブレット端末を活用し、個の到達度に応じた学習ができるようになり、個別最適化を目指す。
- 市学力調査や全国学力調査の結果を受けて児童の学力を分析し、習得が不十分な内容の定着を図るとともに、事後の指導の工夫改善に努める。
- 「あそだ運動」は児童にほぼ定着し、行動にも繋げることができている。地域や家庭へも学校の取り組みの周知を更に図っていく。
- 「麻生田小生活のきまり」については、随時見直しを行い、児童が自ら判断し、行動できる児童の育成を目指す。
- 体力向上策として、体育の授業づくりはもちろんなこと、縦割り班活動や全校体育等の工夫により、楽しみながら体力向上に繋がる活動に取り組む。特に、本校の課題である持久力と走力向上を図っていく。また、新たにサッカー教室（民間）が始まることになり、体力向上に繋がるものと期待している。

学校関係者評価

- 温かい気持ちを持った児童が多いように思う。しかし、ちょっとした言葉で相手を傷つけてしまうこともある。自分の発する言葉については、その大切さを話していきたいものである。
- 登下校時にふざけ合って帰っている児童の姿を見かけることがある。道幅も狭いので非常に危険である。安全教育を徹底することで、危険を察知する力や自分で自分の身を守る力を育むことが大切である。
- 挨拶については、もう少し「元気よく」「進んで」できるようになってほしい。下校時に「おかえり」と声をかけることがあるが、すぐ返事をしてくれる児童は多いとは言えない。高学年になると、恥ずかしさもあると思うが、気持ちのいい挨拶が返ってくると嬉しいものである。
- ⑧-17については、保護者・児童と教職員のグラフの数値ギャップが大きい。本グラフの保護者、児童、教職員を層別にして、①早寝②早起き③朝ごはん④遅刻をそれぞれ分析することによって、どの項目が一番数値を押し上げているのかが見えてくると思う。そのことにより、③-7の数値も向上するものと思われる。
- 健康面では、う歯未処置歯の保有率が高いことが気になっている。その改善に向けて、行政機関等と連携しながら校区でできることはやっていきたい。